令和3年度事業報告書

BUSINESS REPORT

FOREST
Bless to you ...



このパンフレットは、FOREST が運営する障がい者就労支援事業所「branch for pro」が制作しました。

職業訓練・就労のサポートを通じて自立を支援する

障がい者自立支援推進プロジェクト

期間：2018 年～



障害者自立支援に取り組む理由と、私たちの就労支援事業所のご紹介

経済的格差によって生じる貧困の連鎖に苦しんだり、生まれ育つ環境や境遇で可能性を奪われてしまうのは、子どもたちだけではありません。
子供たち同様に苦しい状況に置かれている障がい者の方たちに対しても、Forest ができることはないだろうか、という思いから始まった事業です。

Forest が設立した多機能型就労支援事業所「Branch for pro」には、一般就労に近い形で働く「就労継続支援事業所 A 型」と、柔軟なスケジュールで実務作業の指導や訓練を行う「就労継続支援事業所 B 型」の部門があります。
同地域の他の事業所に比べ高い専門性、技術力を特徴とし、小さな単純作業から総合的な制作まで企業様より仕事を請け負い、日々業務に取り組んでいます。

令和 3 年度の振り返りと翌年度に向けて

昨年度からの新型コロナウイルスのまん延の影響で、Branch for pro でも仕事の忙しさに波のある年度となりました。
社会全体では厳しい情勢が続いていますが、Branch では、同じクライアント様からの依頼を何度も経験することで、利用者の技術力の底上げにつながるという好循環が生まれています。
案件のリピーター様を増やしたいという目標への前進は本年度の実りとして非常に大きく、引き続き取り組みを進めてゆく原動力となりました。

Branch for pro は今年度で設立 4 年目を迎えました。
次年度以降も、WEB チームは新たな分野の仕事への積極的チャレンジ、記帳チームはより多業種のクライアント様を担当できるよう目指してまいります。
就労継続支援 B 型ではスキルアップへの取り組みと支援を行いながら、A 型との連携作業のより一層の発展を図ります。

2021 年度　合格・就職実績

A 型　Branch for pro

基本情報技術者試験　1 名

B 型　Branch for step

一般就労　2 名
Microsoft Office Specialist Excel　2 名
日商簿記検定試験　2 級　1 名

A型 WEB



案件⇔勉強の連鎖で
より難度の高い案件へ対応可能に

プログラムの自作を要するWEBサイトの制作や小冊子の印刷・製本といった昨年度よりも難易度の高い案件にも取り組むことで、通所者のスキルや連携力の強化が行えた一年でした。
新規分野としては景観イラスト(水彩＋デジタル)作成の案件に挑戦でき、クライアント様にも好評で、大きな経験値となりました。
また、資格試験の勉強を奨励することで、実際に合格者も出るなど本年度も着実に実績を積み重ねています。

A型 入力記帳代行



多忙さへの対処と技術向上の
ポジティブな相互作用

様々な業種から頂いたご依頼をもとに行う記帳処理を中心に、会計ソフト入力・法人経理に関わる処理への取り組みなども続けています。

確定申告に向けてのイレギュラーなケースへの対処や、昨年度に比べ契約件数がかなり増加したため､それに伴って忙しさや大変さもありましたが、その分「時間内でどのようにこなしていくか」など通所者のスキルアップに繋がりました。

B型

多様な支援と作業内容で目に見える成果が

2021年1月に開所したB型は、開所からまる一年を迎え、就労・資格合格者も複数出るなど、実績の面でも好調でした。
通所者の方の希望に沿いながら、資格取得のための勉強、生活習慣の改善やコミュニケーション力の向上を図るための訓練、開所当時から継続しているA型の業務の支援(領収書貼り付けや名刺等の検品)に加え､地域キャラクターのグッズ封入のお仕事なども行っています。



子どもたちの教育、健康、成長が守られる支援活動を

カンボジア チェイホーム継続支援プロジェクト

期間：2014 年～



子供の成長記録

2021 年度はチェイホームに在籍する 13 人の子供と、既に卒院した 1 人に日本語学校の学習支援を続けておりましたが、卒院したコンは今年の 4 月から日本で働きはじめ、無事に支援を終えることができました。

また孤児院からも新たに 2 名の子供が卒業することが決まっており、徐々に子供たちが社会へ育ってくれるのは嬉しい限りです。



そしてコロナ禍後カンボジアの経済も大きなダメージを受けていましたが、2022 年 5 月現在、徐々に明るい兆しも見えてきていますので、このまま世界が平穏になることを期待しています。

カンボジアの新型コロナウィルスの現状（2022 年 5 月 20 日現在）

カンボジア政府は 2021 年 11 月 15 日以降、新型コロナワクチン接種が完了している渡航者の入国後の隔離を廃止するなど、早くから入国規制緩和に踏み切っていました。

そのおかげもあってか、観光統計レポートによると 2022 年第一四半期（1 月～ 3 月）にカンボジアを訪れた外国人渡航者は前年同期比 2.3 倍の 15 万 9,546 人を記録しました。

アジア開発銀行が 4 月に発表した「アジア経済見通し 2022 年版」でも、2022 年のカンボジアの経済成長率を 5.3%と予測（2020 年の成長率は▲3.1%、2021 年は 3%）。

輸出の拡大や旅行需要の回復などを背景に、新型コロナのパンデミック以前に近づくことが期待されています。

また 5 月 4 日時点でのカンボジア国内のワクチン接種率（2 回接種）は 83.9%と高い摂取率を誇っており、国内の移動制限や行動制限はなく、4 月 26 日からはマスク着用義務も廃止されました。

※チェイホームの子供達も全員がワクチン摂取済みです。

入国規制緩和により感染者数が再拡大することが懸念されましたが、保健省によると、5 月 1 日から 8 日までの累計感染者数は 11 人で、9 日以降、新規感染者は確認されていないそうです。

ただしカンボジアでは統計が実情を反映できていないケースもありますので、今後も注意深く見守りたいと思います。







学校や教育についての現状

学校において昨年度もリモート学習を強いられる期間が多くありましたが、こちらも現在は改善され、子供たちは以前のように学校に通えるようになりました。
リモート学習時には学校からの課題だけでなく、孤児院としても独自のプリントを作成するなど学習に努めましたが、正直に言ってやってみた実感としては「難しい」と感じていました。

カンボジアでは日本のように母国語による参考書などの学習教材が充実していない為、小さな子供たちはともかく、中高生以上の大きな子供達の勉強をサポートすることはとても困難でしたし、実際に十分とはとても言えない環境だったと思います。

コロナウィルス流行による子供たちへの影響

コロナ禍において、幸いなことにチェイホームの子供たちが大きく体調を壊すことは今のところありません。園内で風邪が流行りコロナを心配したこともありましたが、おかげさまで大事には至っておりません。
しかしコロナの流行を機に豚肉やお米などの物質の支援がストップしたカンボジアの団体からの支援はいまだに再開されず、残念ながらその目処も立っていないのが現状です。

そんな中、子供たちは土地を耕し野菜を植えたり、溜池に魚の稚魚を放流したりと、自助努力での食糧調達にも精を出しました。
その中でも昨年度の特に嬉しかったことは…チェイホームのマンゴー畑で、ようやく果実が収穫できたことです！
このマンゴーはフォレストが支援を始めるよりずっと以前（約 12 年ほど前）、当時継続支援をされていた日本の団体の寄付で開拓されたマンゴー畑で収穫されたものです。通常マンゴーは 7 年程度で収穫できるようですが、チェイホームではその年月が過ぎてもいっこうに実がつきませんでした。

原因はいくつか考えられていたのですが、主な原因は水不足。
チェイホームのマンゴー畑は水源である溜池から 200m ほど離れた位置にあり、ポンプなどの設備もないことから、子供たちがバケツで水を運んで育ててきました。数百本のマンゴーの木にバケツで水を与えるのはとても重労働で、きっと十分な水量が確保できていなかったのだと思います。私個人の見解では「（ポンプなどの設備を入れない限り）もうダメなのかもしれないな…」と、正直いって半分諦めかけていました。しかし、子供たちの長年の努力の結果、収穫はこの通り！
美味しいマンゴーがたくさん取れ、子供たちの貴重なおやつに、そして栄養源となってくれました。諦めずにここまで長い間マンゴーを育ててきた子供たちにとっては、特に嬉しい味だったことだと思います。そしてもちろん、当時の支援団体の方々にも連絡をとりご報告をしたところ、非常に喜んでいただけました。
たかがマンゴー、されどマンゴー。
支援してくれた人の思いを子供たちが育て、そして実がなり皆で食べる！これほど嬉しいことはないですよね。

他にも嬉しいこと、残念なことなど、昨年度も様々なトピックスがあるので、続いて個別でご紹介していきます。



チン（Ms. Peab Chhing）
女性/1999年3月生

高校を中退したのち、長く半スタッフ的にチェイホームで生活を続けていたチンですが、最近ようやく先の目標が決まりました。
この５月から送り出し機関にお世話になり、日本語と介護を勉強して日本で働くことを目指すことになったのです。
ずっと「英語教師になりたい」と言っていたチンですが、（後述する）コンが日本に行くことが決まったことが多いに刺激になったのだと思います。元々日本語も上手な彼女ですから、それほど「無謀な挑戦」というわけでもなく、近い将来本当に日本で働く日が来るかもしれません。
いずれにせよ、以前から彼女にはチェイホームの外に出て自分の可能性を追いかけて欲しいと思っていましたので、彼女のこの挑戦は嬉しい限りです！



ソチータ（Ms.SokSocheata）
女性/1999年9月生

比較的明るいご報告が多い昨年度のチェイホームの中で、一番残念なことがソチータの卒業試験不合格の知らせでした（高校卒業ではあるものの、試験を合格しているかどうかで就職などに影響がある）。
コロナ禍で十分に勉強が進められなかったこともあり、同情の余地はあるのですが…
彼女自身も頑張ってきただけに、やはり残念です。
今後の方針を話し合った結果、彼女はチンと一緒に日本での就職を目指すことになり、同じ送り出し機関の運営する学校で日本語と介護を学んでいます。介護で彼女の優しさが活かせるよう、まずは日本語の勉強を頑張って欲しいと期待しています。



ヒン（Mr.PeabLeheang）
男性/ 1999年3月生

高校を卒業してから自動車整備の勉強を続けていたヒンですが、次年度からはいよいよ本格的にチェイホームを卒園し、就職する年を迎えます。
彼の努力もあって勉強も順調に進み、学校から就職先も紹介してもらっていますので、これで無事社会へ巣立つことになりました。
フォレストが支援を始めた当初、人見知りのヒンは挨拶もそこそこ、すぐ影に隠れてしまうようなところがありました。しかし気がつけばいつの間にか横に来て一緒にふざけ合うようになり、率先して小さな子供たちの面倒を見てくれるなど精神的にも大人になっていきました。
これから社会に出てもチェイホームの小さい子供たちの模範となるよう、仕事にプライベートに活躍してくれることを期待しています。



チョモラウン（Mr. SokChomreun）
男性/ 2000年4月生

ヒンと同じく高校卒業後に自動車修理の技術を学んで来たチョモラウンですが、残念ながら今のところ就職のあては見つかっていません。
学校から就職先を斡旋してくれるよう頼んではいるものの、やはり彼の足の障害（後天的で原因不明）の影響もあってか、中々スムースには進んでいないようです。
また足の状態も決して良いとは言えず、病院にかかり薬を処方してくれているときには痛みが緩和されているものの、薬を飲まなければ睡眠や歩行にも支障が出るほど痛むこともあるようです。
そんな中でも愚痴らず頑張って挑戦を続ける、彼にはそんな精神的な強さがありますから、きっと良い道を切り開いてくれると期待しています。



ナロン（Mr. Sok Narong）
男性/ 2002年3月生

小さい時から障害を持ち、半身が上手く動かせないナロンですが、昨年度は兄貴分に当たるヒンなどが勉強や技術習得の為に忙しくしていたので、いつも以上に頑張ってくれていました。
もちろんできることに制限はあるものの、牛の世話や家の掃除など、彼のできる範囲のことを精一杯取り組み、チェイホームに貢献してくれました。

毎日自分で自転車に乗り、学校に通って、帰ってきてお手伝い。半身が不自由な中で決して楽な生活ではないともいますが、いつも笑顔を絶やさず頑張ってくれています！



メタ（Mr. Sok Mata）
男性/ 2002年6月生

ナロンと同じく、兄貴分の不在により大変だったメタですが、実質的な負担はナロン以上に大きかったと思います。
現在、家畜の世話や畑仕事、はたまた家の補修や薪の調達まで、力仕事のほとんどは彼が主戦力となり働いてくれています。

その分だけ疲れが出ているようで、勉学の進捗が心配ですが…
「高校だけはしっかり卒業する」と実姉のチンとの約束を守るためにも、しっかり頑張って欲しいと応援しています。



ソピット（SokSophit）
女性/2003年12月生

高校３年生になったソピットは、今年は高校卒業試験がひかえている年。
何よりも優先して学業に励んで欲しいところですが、彼女も他の子供たち同様、去年はリモート学習の中思うように自分の勉強は捗っていない様子で、やはり不安を感じているようです。
そんな中でも小さな子供たちに勉強を教えてくれたり、家のお手伝いをしてくれたりと、積極的に周囲のお世話をしてくれた彼女には、ぜひ自分自身の勉強も頑張って、良い結果で高校を卒業して欲しいと陰ながら応援しています。



サムナン（Mr. SokSomnang）
男性/ 2008年5月生

昨年度で小学校を卒業し、今年から中学生になったサムナン。彼も昨年のリモート授業の影響であまり勉強が捗らなかった一人ですが、中学に入ってからそれを取り戻すべく、学校の授業に加え、家でも英語やオンラインでの補修授業を受けるなど頑張ってくれています。

ただ彼は元々物静かな性格で多くを語らないところがあるのですが、中学生の多感な時期に入り、それをより顕著に感じるようになってきました。
もちろんそんなことは思春期ではよくあることですが、彼は昔プノンペンの小学校に通っていた頃に周囲の友達と馴染めず苦労した経験もあります。ですから少し注目して見守っていきたいと思います。



チャンブルティ（Mr. VongChanrithy）
男性/2009年1月生

先ほどのサムナンと同じく、今年から中学生になったチュッピー（あだ名）。
身長も大きく伸びて、随分と大人っぽく成長しつつあることに驚いています！
弟のサンアンとの喧嘩も随分と減ったことを見ると、見た目だけでなく精神的にも大きく成長してきているのかもしれません。

また元々英語が得意だった彼ですが、中学生になりさらに勉強が進み、日常会話なら違和感なく話せるレベルになってきました。
カンボジアでは英語の需要が高いため、このまま頑張ってくれれば将来有望。
サムナンと切磋琢磨し、これからも頑張って欲しいです。



写真左から

レサット（Mr. SokRaksi） 男性/ 2009年8月生

カニタ（Ms. SokKonitha） 女性/ 2012年2月生

サンアン（Mr. VongSothearith） 男性/ 2014年7月生

レサー（Mr. SokRaksa） 男性/ 2009年7月生

今年は小学生４人組を一気にご紹介させていただきます。

まず昨年度一番心配したのは、コロナウイルス感染予防のワクチンを６才以上の子供全員に摂取させると聞いた時でした。



そもそも私にとってコロナウイルス自体がよくわからない中、本当に子供たちにワクチンを打って大丈夫なのだろうか？そんな不安を感じざるを得ないのが正直な気持ちでしたが、国の方針ということもあり見守ることしかできませんでした。
しかし幸いなことに今のところその心配は杞憂に終わり、全員が大きな副作用もなく元気に過ごしてくれています。
また小学生も昨年度は学校にほとんど通えず、リモートでの授業を余儀なくされていました。

しかし先にも触れたように、チェイホームのお兄ちゃんお姉ちゃんの協力もあり、小さい子供の授業は独自に実施するなど、この４人は比較的恵まれた環境でステイホーム期間を過ごせたと思います。
特にカニタは元々の勉強熱心さもあり、お家でも熱心に勉強に取り組んでくれていました。

最後に、先ほどの写真の見た目でもお分かりいただけるかもしれませんが、４人とも随分と身長が伸び、顔も大人っぽく成長してきました。
中でもサンアンの体重増加は１年の変化とは思えないほどの成長ぶりです。
左の写真は 2020 年度の写真ですが、中央に乗るサンアンの変化がお分かりいただけると思います。
今は横に大きく成長していますが、（彼の実兄を見ても）いずれ縦にも大きく成長してくれることでしょうね。
もちろんサンアンだけでなく、チェイホームの子供全員が、今後も健やかに成長してくれることを切に願います。



コン（Mr.SokOuKhong）
男性/ 2000年1月生

本人の希望で高校卒業を待たずにチェイホームを卒院したコンは、その後タヤマ日本語学校にて住み込みで勉強に励み、今年の４月から日本に来て、５月から神奈川県の建築会社で働かせていただくことになりました。

実はこの知らせが私のところに入ったのはカンボジアを経つ直前の４月下旬。
コンにはチェイホーム時代からずっと支援を続けて参りましたが、なんとも言えない個人的な寂しさや複雑な心境があり、皆さんへご報告するのがこのタイミングとなってしまいました。

そもそもコンが日本語学校で勉強するきっかけとなったのがチェイホームを無断で飛び出したことでした。
その際にしばらくは私の家で匿い、縁が切れそうになっていたマナビーさんと話し合いの場を設け、その後の彼の人生をどうするか、何人もの人に助けてもらいながら約１ヶ月にわたり真剣に話し合いました。

その結果、本人が日本語学校で学ぶことを希望した際、実はフォレストとして支援するにあたって２つの条件を提示し、彼と合意の上で支援をすることを決めておりました。

その条件の一つは「最後まで諦めないこと」、もう一つは「支援してくれる人にしっかりと努力の経過を報告すること」。そしてもうひとつ、条件にこそしていませんでしたが「（勝手に飛び出したことで怒っているチェイホームの）お父さんやお姉さんたちに謝るべきところは謝り、誠意を持って接すること」も提案。彼の在学中には何度が足を運び、それを促してきました。

しかし結果として彼が果たした約束は「最後まで諦めないこと」だけでした。
もちろんこれは素晴らしいことで、本当は素直に彼を褒めてあげたい気持ちがあります。
何故ならコンは私が彼と出会った 2014 年当初から、ずっと変わらず「日本語の通訳になりたい」と言っていたのです。
彼がいつからその夢を持っていたのかは知りませんが、少なくとも 10 年近い年月をかけその夢を引き寄せたのですから、それ自体は本当に立派だと思います。

しかしその他の約束と提案は結局果たされることなく、日本行きが決まった際ですら彼から直接の連絡は来ませんでした。私は彼の義兄として「今は」彼の選択を許すべきではないと思っています。

子供の頃に心に傷を負った子供と接していると、こちらが愛情を注いでもすぐに受け取ってくれるばかりではありません。
それは十分に理解していますが、やはり何度経験しても心が辛くなります。

しかし私自身もそうですが、私が親への感謝に気付けたのは自分が親になってからでした。
彼もこれからの人生の中で、お世話になった人への感謝により深く気づくタイミングがキッチリあると思います。
その時が来ることを願いながら、今は陰ながら彼を応援したいと思っております。

このような経緯ではございますが、それでも皆さんのご支援のおかげで彼が長年の夢の第一歩として日本で働くことになりました。
ご報告が遅くなったことをお詫びするとともに、彼へのご支援に感謝いたします。
ありがとうございました。





チェイホームの敷地の前の道路は長く未舗装の状態でしたが、今年度より工事が実施されることになりました。
それに合わせて子供たちも手伝いながら、今まで雨が降ると水で溢れていた入り口付近の排水環境を整えました。




2022年5月現在、敷地前の道路工事はまだ終わっていませんが、着実に進行中です。この道路が舗装されることにより、子供たちの(特に雨の日の)通学環境が改善され、格段に通いやすくなります。



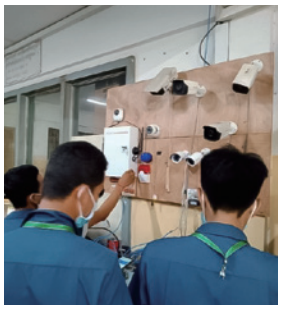


昨年度はチェイホームの子供たちもコロナ禍で外出が制限される時間が多くありましたが、子供たちのストレス解消に近所のお寺に行くなど、現場で子供たちの心のケアにも努めてくれました。





先にも触れたように、チェイホームの果樹園で大量に取れたマンゴー。本当は食べきれない分を市場などで販売できれば良かったのですが、二足三文にしかならないとのことで、ジャムにして美味しくいただいています。


ヒンやチョモラウンくんが通った、自動車の専門学校の様子です。





昨年度も皆で協力して助け合いながら生活をし、ささやかですがお正月もお祝いしました。今年度も良い年になりますように。

昨年度の振り返りと今年度の取り組み

昨年度も残念ながら、一年を通してコロナウイルスに振り回されることが多い一年でした。しかしその中でも皆で支え合い励ましあいながら、健康に仲良く過ごせたのが一番の成果ではないでしょうか。また嬉しいトピックスとして、コロナウイルスの感染拡大が治りつつある中で、少しずつではありますが、カンボジア国内の雰囲気が明るさを取り戻しつつあります。それに伴いスポット支援ではあるものの、カンボジア国内の団体などから支援の手を差し伸べていただく機会もございました。

実は数年前からカンボジア国内でも若者を中心に、支援やボランティアに対する意識の向上を感じていました。しかしコロナ禍で経済への影響や活動の制限もあり、その動きも限定的になっていたのですが、そうした活動も徐々に再開しつつあるようです。

上の写真はカンボジアの支援団体からお米やジュース、そして子供たちの制服を頂いた時のものです。先に述べた通り経済も回復の兆しをみせ活動の制限も緩和された中、こうした国内での支援の動きがまた見られることはとても喜ばしいことです。

もちろん国内の支援の規模はまだまだ十分ではありませんのでフォレストでも引き続きチェイホームを応援していきますが、本来ですとカンボジア国内の支援団体が中心となり、国内の問題に取り組むことが理想です。

もっと言えば、本来チェイホームにはたくさんの卒園生がいるわけですから、その先輩たちが「自分の実家」としてチェイホームを支えていってくれることが「自立支援」を願う私たちの支援開始当初からの理想でした。今年度はヒンがチェイホームを卒園し働き始め、チョモラウンも就職先こそ決まっていませんが、働く準備はできています。チンやソチータも就職にむけて日本語の勉強を始めましたし、そう遠くない未来、社会に出て活躍してくれると思います。

こうしてチェイホームで大きく育った子供たちが、これからのチェイホームを我が家として関わり続けられるよう、彼らの居場所として彼らを見守りながら、いずれ彼ら自身がチェイホームを守っていけるゴールを目指し、フォレストでは今年度も子供たちを見守っていこうと思います。

今年度も皆様の変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。







2020 年度総括

2020 年度も沢山の方からの応援、ご寄付、ご縁を頂きありがとうございました。
今年 2020 年は日本のみならず世界中が新型コロナウイルスの感染拡大という未曽有の事態に陥り、非常に大きな変化があった 1 年となりました。

全体としては 1 月下旬、カンボジアからの帰国後すぐに感染症対策への取り組みが急務となり、カンボジアへは常備薬等の必要物資確保のための追加支援を実施いたしました。
また日本でも、マスクや消毒液の確保等をすぐに開始し、就労継続支援では在宅支援の対応や利用者の感染恐怖に対するメンタルケア等、初めて取り組むことが多い一年となりました。
未知なるものへの対応にどれが正解なのかわかならいといった不安もありましたが、一つ一つの状況や課題と向き合いながら情報を集め、意見交換を行い、今後どのようにウイルスと向き合って生活していくべきかということを、子供たち、利用者、スタッフの皆で模索しながら進めることが出来たのではないかと思います。

海外事業のチェイホームでは子どもたちの成長につれ、自分の将来と向き合う時期に来た子どもたちもおり、それぞれが考えて出した将来の選択もこの一年でありました。
日本語学校へ進学することが決まった子もおり、沢山の日本の方たちからの支援を受け日本を身近に感じ「日本語を学びたい」と思ってくれたことに、この支援プロジェクトの意義を改めて感じることが出来ました。
しかし、今年度はこのコロナ禍の影響により、これまでご支援を頂いていた方たちも厳しい状況を強いられており、支援してくださる方が減少したのも事実でありますが、子どもたちの未来を最大限守っていくため、自分たちでも「チカラ」を付けていく必要があり、そして、これまで応援してくださった方たちとこれからも良い関係でいられるように努力していきたいと思います。
国内事業の就労支援では、感染対策を含め事業所内の改装や新たな管理体制構築のための取り組みを実施いたしました。
これまでは、それぞれ業種ごとに部屋が別れていましたが、改装を行ったことで一体感と解放感が生まれ、事業所内の雰囲気もまた一歩「オフィス」に近づくことでき、これまでよりもより一般就労に近い雰囲気で就労することが可能となりました。
また、積極的に資格取得やスキルアップを目指し自己学習に取り組んでくれている方もいるため、全体的に良い影響が生まれてきています。
中でも昨年から進めていた国家資格 Web デザイン技能検定の長期講習では、全体のスキルアップの底上げができ、受験希望者 3 名全員が合格するという、本人にとっても事業所にとっても実りあるものとなりました。
これからもスタッフ、利用者そして事業所全体が現状に満足せず、それぞれが高めあい、向上することのできる環境を目指し進めて行きます。
そして、もう 1 つの国内事業であるチャリティイベントや物品支援等の活動については、残念ながら今年度はコロナの影響により殆どの活動を見送る形となりました。各関係機関の方とも子どもたちの成長のために何かできることはないかと色々な案を出してはみましたが、それによる影響が全く予測できない状況であるため、協議の末に断念いたしました。

2021 年もまだまだコロナの影響が続くと予想されますが、変化を恐れず、一人一人に寄り添った支援を進められるよう、私たちに出来ることを続けて参ります。

代表理事　小野塚　舞

世界には、さまざまな理由から「学ぶことを許されない」「明るい未来を描けない」「選ぶ権利がない」など、可能性を制限されている子どもたちがたくさんいます。
Forest（フォレスト）は、子どもたちが本来持っている権利や可能性が、産まれ育つ環境、境遇によって制限されてしまうことがないよう、子どもたちに寄り添った支援を進めて行く特定非営利活動法人です。また、常に活動を見直し、経費を削減することで、より多くの支援を現地に届けます。

Forest の活動指針

-MISSION- 使命

現在（いま）を生きる不遇な環境で育つ子どもたちすべてが、輝ける道を創り、循環支援の輪を生み出す

-VISON- ビジョン

・どんな子どもたちにも平等に夢を
・どんな子どもたちにも未来への希望を
・どんな子どもたちにも無限の可能性を
・どんな未来の子どもたちにも繋がる循環支援の輪を

-CORE VALUE- 基本理念

・子どもたちの可能性を大切にします
・人との繋がり、縁、想いを大切にし、お互いを尊重します
・自らの言動、行動に対し、偽りなく誠実であり続けます
・最善の方法を常に探求します

社名の由来

木は自然の恵みを十分に受けることで、幾本もの枝を広げやがて大樹へと生長していきます。Forest は、子どもたちの成長を木々に例え、恵まれない境遇にいる子どもたちが、多くのことを吸収できるよう、そして、より多くの可能性の枝を広げられるようにという願いを込めて用いました。

ロゴの意味

白で描かれた木は子どもの木をイメージしています。
そして、子どもの木の周りを彩るそれぞれの色は子どもたちの個性や可能性が広がって行く事を表しています。

FOREST
Bless to you ...

本部	〒 060-0061 北海道札幌市中央区南 1 条西 7 丁目 12-6	設立日	2013 年 12 月 3 日
		法人設立日	2014 年 4 月 8 日
支部	〒 8150-042 福岡県福岡市南区若久 6-24-8	E - MAIL	info@forest-japan.org
		WEB	https://forest-japan.org/
TEL	011-272-7716		
FAX	011-272-7715	代表理事	代表理事　小野塚　舞